

1. 新しい指導農業士さんにお世話になります！

日野郡の新しい指導農業士さんを紹介します。任期は平成29年～平成31年の3年間です。指導農業士は、地域農業の活性化に熱意と経験見識を持っておられる方を各町から推薦していただき、鳥取県知事が認定するものです。新規就農者等の指導、地域農業振興策の提言、農業改良普及活動への協力等に尽力いただいています。特に新規就農者に対して農家ならではの指導と助言をいただいております、普及所は研修会等の場を複数回企画していくこととしています。



坪倉勝幸 (日南町)

◆水稲

水稲専業農家として率先して規模拡大を図る他、作業受託も行う。日野地区指導農業士連絡協議会会長。県指導農業士連絡協議会会長も務める。



岩田正 (日南町)

◆水稲+トマト

水稲、トマト、作業受託の経営モデルを長期にわたり実践し、安定的な農業経営を行っており、平成25年には、県優秀経営農林水産業者受賞。



浅田昭弥 (日南町)

◆水稲+白ねぎ

水稲、白ねぎ、作業受託の経営を長期にわたり実践。農業委員、JA理事も務め、集落営農組織設立に尽力している。



松本洋一 (日野町)

◆水稲

株式会社優裁代表取締役をつとめ、大規模水稲栽培と作業受託を行う。環境にやさしい農業を推進し、海藻米など特色ある取り組みを実践している。



竹内敏朗 (江府町)

◆水稲+そば

水稲は、奥大山プレミアム特別栽培研究会に所属。そばについては、「ほろみろり」の産地化に向けて取り組むなど特色ある農業を目指し精力的に取り組んでいる。

県庁において開催された指導農業士授与式の様子。県中西部の指導農業士の皆さんと平井知事。



県知事より認定証が授与されました。(平成29年1月30日)

(お問合せ)日野農業改良普及所 電話0859-72-2025

[新規就農)渡辺(6次産業化)木下(作物)長戸、金川(野菜)小谷(畜産)米村(花卉)福本(果樹)杉嶋

2. 日南トマト青年部会、がんばっています。

日南トマト青年部会は、J A日南トマト生産部の若手農業者の集まりで、17名の部員が会員相互の研鑽と親睦を深めるための活動に取り組んでおられます。

平成28年11月25日(金)には日南町阿毘縁のゆきんこ邑で平成28年産の反省会が開催されましたので紹介します。

まず、(株)ファームイングのトマト担当者からの本年産の栽培事例発表がありました。(株)ファームイングはトマトの栽培面積は35aで日南町内最大規模のトマト生産者です。若手の新入社員の採用、新規ハウス増棟への取り組み、新技術の実証等、まさに日南トマト生産部をリードする生産法人です。

事例発表では本年作の良かった点、反省点などの報告がありました。

良かった点として以下の報告がありました。

- ・新規ほ場は尻腐果が出やすいため、葉面散布を徹底することで、尻腐果の発生を極めて少なくすることができたこと。
- ・新品種のりんか409は果梗が伸びる特性があるため、折れたりしないようにバインダーのヒモで吊り、落果による減収を抑えたこと。
- ・薬剤防除はかけムラがでないように丁寧な予防散布を心掛け、稲刈りの繁忙期でも病害の発生を非常に少なくできたこと。

一方、反省点は以下のとおりです。

- ・新規ほ場で一時的に脇芽とりが遅れてしまい、主枝更新などの対応に苦慮したこと。
- ・誘引が支柱の内側になってしまい収穫や片付けに手間取ったこと。

会員からは、発表についての質疑がなされ、自らの栽培技術の改善に向けて相互に研鑽を深めることができたように思われます。

また、次年度の活動内容についての話し合いでは、会員の園周りを行うことが提案され、できるだけ短時間に抑え、効率的に園周りをすることや、土壌病害予防の徹底について話し合われました。



最後に、普及所から若苗定植試験の実証ほの結果の報告を行いました。

その要旨は、活着促進のための若苗定植をするものです。結果的に慣行苗でも活着は問題なかったのですが、本年のような6月上旬の低温で生育が止まることや、台木を揃えた条件下にすることでの再検討が必要ということになりました。